

第2回津別町議会臨時会『行政報告』

はじめに、誠に残念な報告ではありますが、去る3月16日、津別町社会福祉功労者 伊藤政義様のご逝去されました。故人は、永年、民生児童委員として、地域の社会福祉に多大なご貢献をいただきました。

また、去る4月2日、津別町消防功労者 金一謙藏様のご逝去されました。故人は、永年、消防団員として、地域の防災活動に多大なご貢献をいただきました。

お二人の生前中の数々のご功績に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げますとともに、安らかなご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

次に、ふるさと納税についてであります。平成29年度の寄附の状況につきましては、2,254件、102,965千円で、前年度の2,841件、116,951千円と比較し、件数、金額ともに減少いたしました。これは、ふるさと納税に力を入れる市町村が急速に増加していることが要因の一つと考えられますが、そうした中におきましても1億円を超えることができましたのは、本町を選択していただいた多くの方々のお蔭であり、改めて感謝を申し上げます。次第です。

制度が定着する中、総務省は高額返礼品や寄附に対する返礼率に対し、本来の主旨に反することのないよう度重なる通知を行って

るところですが、本町もそれらの通知を尊重しているところであり
ますが、返礼品は全て町内で生産等を行っているものであり、今後
ともその魅力を伝えるとともに、用途について情報開示を積極的に
図るなど、引き続き寄附の拡大に努めて参ります。

次に、**地域おこし協力隊**についてであります。4月1日、障害
者福祉事業所において地域活動支援センターの立ち上げに向け、そ
の活動の中心となる杉本あずささんが千葉市より着任されました。
既にさんさん館のカフェコーナーにおいて、地域情報の受発信を手
がけており、今後の活動に期待するところです。

今後とも地域おこし協力隊の制度の活用とともに、隊員の永住に
向けて支援して参ります。

次に、**交通安全推進運動**についてであります。4月11日、生
活改善センターにおいて、各事業所や自治会関係者など、町内全域
から約200名の参加者を得て、交通安全推進町民大会を開催いた
しました。

今年2月3日、共和で死亡交通事故が発生し、町民1人の尊い命
が失われましたことから、この大会において、「町民による交通死亡
事故ゼロ日運動」と「町内における交通事故死ゼロ日運動」の目標
を、いずれも500日と確認し、目標達成に向け、関係機関はもと

より町民の皆さまとともに運動を展開し、悲惨な交通事故のない明るいまちづくりに努めて参ります。

次に、網走川流域の会主催によるシンポジウムについてであります。4月20日、中央公民館において1市3町の会員をはじめ、管内各地から農業者、漁業者、企業、行政機関等125名が参加し開催されました。

シンポジウムでは、森林インストラクターで北海道水産林務部林務局林業木材課長である工藤森生氏が、「水ぎわの緩衝林造成を考える」と題し、農地保全と濁水や土砂流入防止のための緩衝林づくりを提唱しました。また、津別町在住で高知大学名誉教授の大野晃氏は「私の『限界集落30年』の歩み」と題し、永年の山村集落の調査・研究の成果を記録映像や新聞記事、論文等を使って話され、「限界集落の実情は厳しいが、希望を見出し光の道筋を見つけよう」と訴えられました。

参加者は、改めて「山」「川」「海」が一本の道でつながり、流域が社会に重要な役割を果たしていることを再認識したところです。町としましても、今後とも積極的に上流域としての責務を果たして参る考えであります。

次に、NTTコミュニケーションズラグビー部の新グラウンドお

披露目会についてであります。4月24日、NTTコミュニケーションズラグビー部（Shining Arcs）の新グラウンド「アークス浦安パーク」のお披露目会が開催されました。市川市から浦安市に移転した新グラウンドは、天然芝2面のほか充実した室内練習場が完備された3階建てのクラブハウスからなるもので、浦安市長はもとより多くの関係者が見学されました。

夜には浦安市内のホテルで披露パーティーが開催され、主催者である庄司社長の挨拶に続き、津別町からお祝いの品として、カラマツ積層ベンチの贈呈式が行なわれました。素晴らしい設備と環境の中、更なる高みを目指されることを期待するところです。

次に、まちづくり会社統括マネージャーの決定についてありますが、町内外を問わず募集した結果49名の応募があり、第一次の書類選考により10名を選考し、3月25日に面接形式の第二次選考を行い、6名に絞り込みました。その後4月22日に、この6名による公開プレゼンテーションを行い、翌23日の最終面接を経て、まつばやしなおふみ松林尚史さんを統括マネージャーとして決定したところです。年齢は36歳、東京都に在住し、奥様と子どもさんが1人の3人家族で、現在、外資系コンサルタント会社に勤務されていますが、7月中旬には移住・着任を予定しているところです。

まちづくり会社構想は、これまで高校生や町民の皆さまによる話し合いから生まれたものであり、希望ある津別町を実現するため、行政が行うより民間が取り組んだ方がより良いと考えられる業務を行っていく会社と位置づけています。統括マネージャーは、その中核になるものですが、1人の力では到底為しえるものではないことから、行政におきましても全力で支援するとともに、議員各位はもとより、町民の皆さまにおかれましてもご理解とご支援を強くお願いする次第であります。

次に、複合庁舎建設等まちなか再生基本計画策定に係る第2回住民懇談会についてであります。4月27日に昼の部と夜の部の2回実施し、合計100名の方が参加されました。第1回と同様に、今回もアンケート調査を併せて実施したところ、40名の方に回答いただきました。このほか、懇談会開催周知チラシと同時に募集した意見につきましては、4件の提出があったところです。アンケートも含め、懇談会では様々な意見が出されましたが、本計画のゾーニングや新たに整備を計画する施設に対する反対意見は、大きなものではなく、賛意を示す意見も多くあったことを総合的に勘案し、議会特別委員会に本計画（案）をお諮りし、ご承認をいただきましたので、5月15日より31日までパブリック・コメントを実施し

ているところであります。

今後につきましては、パブリック・コメントによる意見への対応を協議のうえ、計画完成に向け進めていく考えであります。

次に、「(仮称)北海道立林業大学校」の誘致活動についてですが、北海道は、「(仮称)北海道立林業大学校設立基本構想(案)」のパブリック・コメントを3月21日に終了し、4月3日に同基本構想を公表しました。この中で北海道は、本校と地域拠点の想定される条件を示し、公平性、透明性を確保しながら、候補地の選考を進めるとし、既に事務段階での地域ヒヤリングを終了したところです。

こうした中、オホーツク林業大学校誘致協議懇話会は、オホーツク地域こそが誘致活動を行う他の12地域に比して、林業の担い手を教育するフィールドとして最も優れており、津別町と滝上町を2大キャンパスとしつつ、18市町村が一致団結して担い手の育成を目指すとする新たな要請書を作成し、5月24日、北海道知事に2度目の誘致要請活動を行ったところです。今回もオホーツク管内選出道議会議員が3名同席され、黒瀧会長、北見市長、紋別市長、滝上町長とともに、改めてオホーツク地域への誘致への熱意を表明してきたところです。今後とも誘致協議懇話会や関係各機関と連携し、オホーツクへの誘致活動を進めて参ります。

なお、今議会におきまして、専決処分の承認、条例制定等の議案を提出いたしますので、慎重にご審議の上、原案にご協賛賜りますようお願い申し上げます。